

Interview with a Local
file no. **03 Jigebito**

Q 「お試し住宅」の制度とは？

A 実際に安来市での生活を体験できる施設で、最大3カ月間入居可能です。生活に必要な設備はほとんど揃っていて、気軽にお試しできました。(石神)

Q 安来のいいところは？

A 自然も豊かで住みやすいですね。経済面でも、子育ての面でも楽だと思います。(佐伯) 人が優しいです。お試し住宅での生活中にも近所の方がお茶に招待してくれたり、また(安来に) 帰ってきてねって声をかけてくださりうれしかったです。(石神)

Q UIターンを考えている方にアドバイスをお願いします。

A 人との繋がりの中で得られるものって大きいし、仕事面で見ても可能性が狭くなると思わない。小さな街だからこそその可能性を感じます。(佐伯) 都会はコロナ禍で色々制限されることが多くなったけど、こっちは比較的普通に生活できるし、人間らしい幸せがありますよ。(石神)



合同会社 子どもベース
佐伯絵美さん 石神順子さん

現場に寄り添うコンサルティングで
保育の未来をもっと明るく！

国全体で様々な課題を抱えている保育の現場をより良くしたい。そんな想いを胸に、2021年2月「合同会社 子どもベース」を立ち上げた佐伯さんと石神さん。東京の保育園で出会い、共に現場を経験してきたお二人が、安来市で会社を始めた経緯をお伺いしました。



子どもベース代表の佐伯絵美さん(左)と石神順子さん(右)。「身近な存在」として、保育現場の方と関係性を築きながら、共に創っていきけるコンサルティングを目指している。

佐伯さんは保育士と園長を経て東京から安来へUターン

子どもベース代表の佐伯さんは安来市出身。地元や鳥取県西部の保育園で保育士として14年ほど働いた後、勤務先の園と運営元を同じくする東京の園に異動。大田区の園に主任として1年、世田谷区の園に園長として3年ほど勤務していました。保育現場での経験を重ねる中で、外部での仕事も増え、研修講師や保育士向けの書籍の執筆など、保育についての様々な発信業務にも携わるように。「外部の保育園を見る機会も多く、現場が抱える色々な課題も見えてきました」と話します。2019年からは夜間の大学院に通い始め、その翌年には園を退職。大学院の卒業後に地元に戻る予定でしたが、コ

ナ禍になり授業が停止状態に。悩んだ末に、予定を繰り上げて安来市へUターンしました。「帰郷後はオンライン授業で無事に卒業できました。また保育の現場に戻ることもしましたが、保育士や園長として現場の様々な課題に直面する中で、保育現場を支える組織の必要性を強く感じました」と話す佐伯さん。フリーになった今、経験を生かして自分に何かできることはないかと、保育のコンサルティングを考えるようになったといいます。

東京出身の石神さんは、生まれも育ちも東京都。都内で幼稚園教諭や保育士として勤務する中、大田区の園で安来から来た佐伯さんと出会いました。その後、一時は保育士を退職しましたが、再び現場に戻った去年、感染症がはじまりました。コロナ禍の東京での生活に不安を感じた石神さんは、移住を考えるようになったといいます。移住先を探る中、見つけたのは安来市の「お試し住宅」の制度でした。「米子には園の関係で何度か訪れたことがあり、安来はそのお隣だったので親近感がありました。3カ月間のお試し生活でしたが、海も山も空気もキレイで、地域の方に親切にもらう内に、こちらに移住したい気持ちが強くなりました。そして石神さんは安来市出身の佐伯さんに連絡。この時、既に佐伯さんは安来に帰っていました。石神さんはその事を知らな

かったといいます。「実は今、安来にいらんだよ」という石神さんに、驚いたのは佐伯さん。「私もいるんだけど…(笑)」。こうして思いがけなく再会を果たしたお二人。佐伯さんの保育コンサルティングの構想を聞いた石神さんはそれに賛同し、安来市への移住を決意。かつて保育士として一緒に働いていた二人による保育コンサルティング会社が誕生しました。

経験を積んだプロだからこそできる現場の内側から見据えたコンサルティング

「保育現場はどんな時世にあっても必要かつ重要な場所でありながら、評価はされにくく、質を求められる職業。理想だけを追求されて、迷いの見える現場も多い。子どもたちのためにも、本来は楽しい仕事であることを伝えていきたい」と佐伯さん。様々な現場を経験してきた2人だからこそ、理想だけではなく、保育士や子どもたちに寄り添ったアドバイスができるのが最大の強み。まだできたばかりの会社ながら、島根県内外の保育園から依頼が来ているといい、「オンラインで保育現場を見せてもらえば、遠隔でのコンサルも可能。拠点をここに置きながら、全国を対象にアドバイスをしたいから」と笑顔で話す佐伯さんと石神さん。

保育のプロフェッショナルであるお二人が、安来市から全国の保育現場を明るくしていく、そんな未来も見えてきそうです。